

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. アドバイザリー・パネル制度を改編する。	→2005年度末に制定されたアドバイザー・パネルに関する内規の改善内容(委員の人数、任期、資格、役割の明確化などの再検討内容)を行うための会議開催回数。	C	C	C		
2. 学部の使命・目的に照らして商学部の教育研究組織が妥当であるか否かに関して、継続的に検証する。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	B	C	C		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	アドバイザー・パネル制度はもともと商学研究科のマネジメント・コース(経営戦略研究科に発展的改組)の問題についての意見聴取のために設定されており、必ずしも教育組織を検討する制度ではなかった。したがって、学部の観点からは所期の役割を達成したと考えられるので、休止状態にある。また、その理念・目的は、当面、改定の必要がないのか、あるいは改定の必要があるのか等に関する検討も休止している。
★ 目標2	教育研究組織については、本来は理念・目的、そこから来るカリキュラム等を総合的に勘案して決定されるべきであるが、とくに組織の問題については人事委員会が役割を担っており、カリキュラム委員会等と連携する必要がある。
備考	